

もっと知りたい 福生の歴史 (4)

福生市のことをより知ってもらえるように、テーマをしぼって取り上げています。

ミキノクチ

ミキノクチはお正月の縁起物で、神棚に供えるお神酒の徳利の口に飾ることからこの名前があります。ミキノクチは全国的に分布していますが、材料は木、竹、金属、紙などさまざまで、その形状にも地域差が見られます。

ミキノクチというのは総称で、主に紙で作られるものをカミノクチ、竹で作られるものはタケノクチとも呼びます。福生で作られているのはすべて竹製のものです。



竹製のミキノクチ



紙製のミキノクチ

ミキノクチの形いろいろ

ミキノクチには、例えば来福や蓄財を象徴する「宝船」、一年中青々としていることから不老や長寿を連想する「万年青」や「橘」、邪気を払うとされる「茗荷」など、縁起ものなので「めでたさ」に繋がるデザインが多いようです。

また、この他にも「扇」や「剣」、「松」、「蝶々」など多種多様な形が日本各地で見られます。



宝船 七つ玉



橘



輪がけの三つ玉

もっと知りたい 福生の歴史（4）

福生市のことをより知ってもらえるように、テーマをしぼって取り上げています。

福生のミキノクチ

福生市加美平在住の細渕昌一氏は、現在も竹を主材料とするミキノクチを製作しています。ミキノクチの製作技術は代々継承する家が多かったらしく、細渕氏の技術も祖父の勘次郎氏から受け継がれ、勘次郎氏はさらにその先代、そしてその先代に技術を伝えた先々代は明治28年（1895）に現在の府中において製作技術を学んだということです。

生活スタイルの変化とともにミキノクチを供える習慣も衰退し、ミキノクチの製作者は多摩地区全体でも今ではごくわずかとなりました。このような状況の中、細渕氏のミキノクチ製作技術は平成6年（1994）に福生市登録無形文化財として登録されています。



ミキノクチの制作風景

ミキノクチの基本形

ミキノクチには様々な形がありますが、原則として「^{たま}玉」「^{びん}鬢」「^わ輪」の三種の基本形の組み合わせでできています。



玉



鬢



輪